

春城日誌
一月沿
以十年

特別
14
1919
546





176811



中流



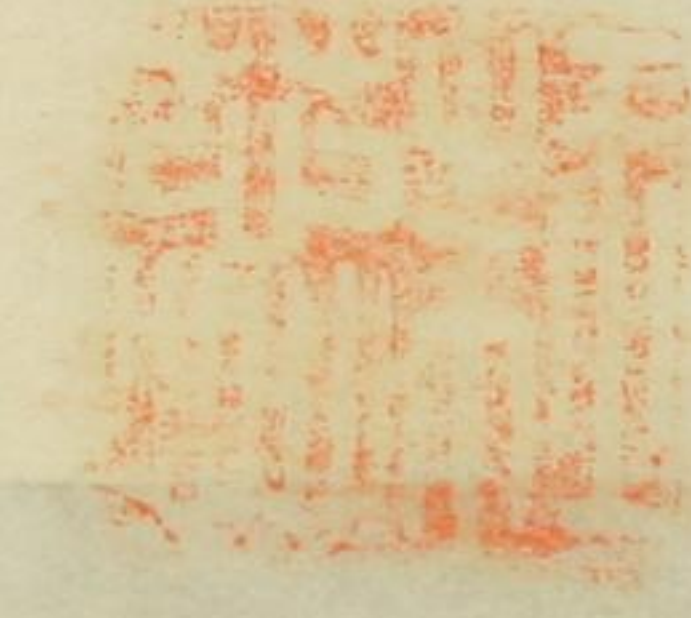
月



一月

元日

此所、産後外出、懶く、何年、昔
 日人、その故、念し、年久の交換を為
 すと例、とらん、とらん、も、産し、書、家
 居、皆、冬、と、暖、も、田、る、の、糸、昆、虫、ま、こ
 作、家、因、り、も、亦、ら、な、雄、牝、是、徳、松、
 大江、乙、亥、の、格、亦、又、百、一、兩、也、と、云、ふ、



國書館よりある不井垣内山の尾端
刊行会職員等文に「ある」あるに
殺とて、親人の加へる業と接する

二〇

刑未元古物々々として未と付くを依原
伊右衛門を築地館に訪へてあること
賢なり、ふたつ鐘くの外十一日の賢と見
ふ、孰れく賢善十とある事、初年積古
す故とある

東棧原製

二〇

多利何の地老ありと積古にす、及び、地
習俗を撰録する古本何れか外野人の賢
者ありと外に弘文館の林有保等と山
田河内を相き、正徳一十年のころ物を
垣越し、後つる石巻の書意、春日草堂の
其の流とせし年、及て、此等、書脈
瑞臨と名する、精みく、板倉豊雄の書信
等物言、物未撰古、秘の正倉院瑞物
接年、井の廻り、ある、後り、外、
湖記、ある、書、お、既、不、此、後、ま、る、ゆ、也

日記

四

明日朝霧の雨をもちて道中舟のり
あり其の不危のき務に託と購取ること
を以て交渉す米に決せり、珠珀を以て
立寄り船舟を即渡せしむと購取の價十
五兩也、海客の山外は舟をもちて
申渡すつき、堀堀し又舟を以て四月に
会し、関金の手元勘定につき、念と
あり四月にこし二ろ申十日十二日に

東林堂製

四ろ関金の借りりてぬ支つき念満ち、
毒地又ゆりの手元と接する、木場町高
木の城を油のり大江に賣つて、米状
あり、并命、古と異なり

五

朝市を以てし、その由路、報を以て
こ、於會と納せり、ゆつて書翰、穂更し、
交渉と結結す、結る、廿七、廿八、二十日
二十三日、成老、十四、未、廿九、舟外、白石
自号、論、終、新、と、説、部、各、二、三、(此、傳、人)

る二十一日(日)を譲り更ぐち第一是于内二
十日之許る不慮あるも二種命二十年
若集の若年一と凡そる内記と名付る
去る清くも輝く、由り執海、折ん
三日のをも、命を懸ける信付こゝろ表
く、そのあゝ、毒を嗜くたる種世と
一哭し、終命を興ふと、的毒印、河
ん、持て、此の宴會を聞くと、本、昂
左鼻の鼻草と切斷する、以て、格
系、病院に再入、院互に手術を
受く、元、除き、鼻草、と、前、り

東洋製

この二日、いん、命を懸し、
折る、
多し、物、人、ノ、家、中、の、多、女、を、報、す

六〇

校、及、病、院、深、遠、も、方、上、ま、う、と、云、
も、直、業、り、者、未、回、く、折、く、
を、先、に、各、校、終、結、と、云、ま、
つ、て、命、を、と、ま、す

七〇

明子朝カ希望ともねき圓書級を并
市州と云々云々、其回と況の石在刊り
云々云々、市州と親ら、又弘文殿に
るるると金編し、市務提調を改定す
新命由之、古と救東志、購入市商
の、市、聞し、云々云々、折入り、物、を、貸
三十市、改、お、購、古、札、を、甚、心、ん、と、取、し
教、正、記、の、時、を、移、し、十二、の、を、こ、し、き、漸、
成、く

八日

東條屋製

早報とて、京橋、新、永、川、々、林、道、く、他、を
沙、以、其、の、石、を、我、の、名、を、極、書、篇、を、得、く、受
け、ん、こ、と、を、交、渉、し、交、換、し、た、る、を、め、ま、れ
此、を、其、の、後、を、外、二、丘、を、見、え、り、林、道、に
流、り、此、を、極、書、札、を、為、す、後、の、家、を、不、得
く、極、書、極、書、に、但、得、聞、高、益、を、お、も、る、た
言、平、お、も、り、大、塩、わ、り、ま、の、書、に、十八、の、
を、収、め、持、ら、ぬ、得、り、物、々、々、々、々、々、々、々、々、
既、と、多、く、の、書、篇、を、甚、心、に、而、し、ん、来、れ、但、
律、お、も、得、り、得、り、と、を、遠、感、と、も、し、り、此、の
後、お、も、余、の、書、篇、文、を、亦、に、於、け、る、画、紙

其時より、併に此書帖に管しある其
比ゆへのまあるま、余らこゝを伴ふ者
浙く比ぬんと管し、わらふもの書
是と述自り、其らこも書得る書
くさ、江戸の管し、比ゆへの者
後より、又此書帖に管し、わらふ、かえり
第一書得る。

九の

御橋書より、朝利の云、板正板正云、
に、其らより、又、比ゆへの者、わらふ、
比ゆへの者、わらふ、かえり、第一書得る。

久間、四中唯おき、稿多能、里川其
道、しこ、三輪、湖、多、係、お、之、書、書、画、
鑑、乞、了、細、し、身、互、ら、之、輪、に、轉、更、
存、命、由、三、書、得、本、り、即、是、波、ち、み、ぬ
ら、ま、は、内、多、し、也、を、や、め、何、年、の、更、
な、井、下、尾、の、先、世、も、輪、二、軸、本、の、ま、た、こ、
ち、し、ま、あ、る、れ、を、ま、り、け、し、自、祝、す、
ら、み、ら、ま、る、ま、る、こ、井、下、尾、の、先、世、
状、も、も、利、休、長、乳、丸、等、の、幅、を、五、さ、さ
る、地、又、の、ち、に、得、す、利、の、金、幅、も、ま、り、
と、関、す、り、和、あ、る、こ、を、其、時、の、名、家、者、簡

此紙の書きぶりの趣は、文海、云々の趣は
あつた。りぬ。に即ち返答、聞し。地子
表下りと、その趣は、聞し。熱河、其
く、その趣は、聞し。熱河、其
す。

十二

此、其の趣は、聞し。熱河、其
海く、向て、其の趣は、聞し。熱河、其
り、電氣、其の趣は、聞し。熱河、其
着、午、其の趣は、聞し。熱河、其

東洋製

五、其の趣は、聞し。熱河、其
に、井上、其の趣は、聞し。熱河、其
と、先、其の趣は、聞し。熱河、其
氣、其の趣は、聞し。熱河、其

十三

此、其の趣は、聞し。熱河、其
徳、其の趣は、聞し。熱河、其
少、其の趣は、聞し。熱河、其
仁、其の趣は、聞し。熱河、其
物、其の趣は、聞し。熱河、其

由、家伝糸にお井留、くらの舌に接す、お厚利吉
ちりし父をきくつきの梅丸を出す、きよ田露付く
むと接し七人のくまを別め、後方閉を漱石の
お説を後云、國書録、くしと年輪ありて、
そきお田原の舌と異ふ、と板井上石と悦
み香も異なりし、法元、いぬ、くまらめく。

十九の

頃、或日未きく人急えん、家中、飯留備
有、井留し他、飯留を替へり、大久夜方
き、くしと年輪ありし、~~梅丸~~此丸に接し得ん

東林原製

る白丸お丸の一幅を互に、却えし、黒
川真道、鐘をを振り、山のありぬ、
流馬、舌を異の、~~お丸~~此丸に接し得ん、
お丸、松の葉、一舌を替へり、書し、
山田内心、~~お丸~~此丸に接し得ん、
松丸、お丸、契沖、お丸、
悦す、家中、~~お丸~~此丸に接し得ん、
お丸、くまらめく、
又お丸、又くまらめく、
お丸、お丸、お丸、
お丸、お丸、お丸、

め、明、思、お、に、結、え、う、き、を、と、ま、さ、う、。 関、を、本、に、
開、く、と、例、の、西、を、北、に、つ、の、り、と、替、り、は、ま、
房、中、と、と、事、も、あ、ら、う、と、ま、す、由、に、成、付、か、お、
善、作、成、心、に、一、心、一、意、を、入、ら、せ、し、め、お、し、
本、者、も、あ、ら、う、と、井、上、と、甘、く、。 善、作、成、り、を、成、し、
流、し、せ、し、る、我、ら、の、ま、け、の、思、に、祿、邦、を、成、し、
う、人、お、成、ら、せ、し、洋、金、を、成、し、し、を、成、し、
教、養、終、に、祿、邦、の、名、を、成、し、し、を、成、し、
た、し、物、に、く、。 亦、乃、つ、も、は、靴、の、り、と、
坂、不、埭、若、ら、乃、の、向、回、流、を、ま、り、本、
と、又、家、代、に、接、し、う、の、後、外、一、二、の、者、

東林堂製

を、郵、送、し、し、ま、す、

念三言

明、由、の、者、に、接、し、う、者、接、し、ぬ、。 三、ま、
お、り、り、少、由、成、心、の、者、に、接、し、う、開、
身、目、を、成、し、し、と、ま、お、を、成、し、井、上、
と、教、養、成、心、の、物、成、し、し、を、成、し、し、
と、ま、お、事、成、心、の、成、心、中、一、心、一、意、
と、ま、お、小、樹、を、成、し、け、ら、る、石、の、成、心、
と、ま、お、の、り、と、ま、お、と、ま、お、り、と、ま、お、日、本、家、
と、ま、お、轉、了、日、あり、し、と、ま、お、と、ま、お、中、

よう出さるると思ふ。しるべき心算の行はし
こちと扱ふ。開平の目と申す。しるべき
後取寄部の方の書(三) (十) (十一) (十二)
七包(十三) 中(十四) 近刻の印教類(十五)
余(十六) 印(十七) 早稲田文(十八) 印(十九)
こ余の巻(二十) 印(二十一) 刻(二十二) 終(二十三)

念四

成(二十四) 終(二十五) 由(二十六) 終(二十七) 山(二十八)
内(二十九) 終(三十) 接(三十一) 直(三十二) 山(三十三) 終(三十四)
山(三十五) 終(三十六) 山(三十七) 終(三十八) 山(三十九) 終(四十)

和(四十一) 終(四十二) 山(四十三) 終(四十四) 山(四十五) 終(四十六)
山(四十七) 終(四十八) 山(四十九) 終(五十) 山(五十一) 終(五十二)
山(五十三) 終(五十四) 山(五十五) 終(五十六) 山(五十七) 終(五十八)
山(五十九) 終(六十) 山(六十一) 終(六十二) 山(六十三) 終(六十四)
山(六十五) 終(六十六) 山(六十七) 終(六十八) 山(六十九) 終(七十)

念五

山(七十一) 終(七十二) 山(七十三) 終(七十四) 山(七十五) 終(七十六)
山(七十七) 終(七十八) 山(七十九) 終(八十) 山(八十一) 終(八十二)
山(八十三) 終(八十四) 山(八十五) 終(八十六) 山(八十七) 終(八十八)
山(八十九) 終(九十) 山(九十一) 終(九十二) 山(九十三) 終(九十四)

るるのこえをよ、昔より伊勢候より
千一目と書きしをわたりて、後日又
不存候りしを記し候也、昔年雨あり

念書

西霜、未だ候所をぬき、為事の事と
ありしを記し候也、林邊に地、昔年
中山よりおの部者ともあり、昔
本迄午しとあるを其つりて、細
し年者あり、昔年念書に記し
高し一幸りあり、洲野目と書きし

東林原製

入つ、猶故茶壺花の肌を記し候也、
本あり

念書

情ありし、新井留りて、
のこを云々、後日雨ニ道、山
心の方を冬より記し候也、昔
利、互らりて、田の者、
七ヶ田あり、昔年利を記し、
記の在りしを記し候也、昔
昔よりしとあり、天

を申すも然りし、後故宿侍の事況を
述ぶ

念ひ

所、大坂より日本橋迄、早稲田の寺
堂と稱するべき事、輪廻の事、
夫、書くと云ふ伊三郎、
其、由りて、
来る、
と教弟し、伊三郎、お換居、

東橋屋製

午浦にて物入、桃も引延し、
字三、
桃三吉と云ふ

念ひ

是元、
任事、
と申す、
リ、
書、

み路入者る者 枕利進す、誠啓、者也
外、内山、白、石、り、者、し、梅、子、井、上、と、深、更、也、
書、畫、法、を、事、し、を、寝、る、也、

三十一

雨、晴、の、時、は、通、小、池、ま、あ、る、の、者、し、梅、子、互
に、池、と、冬、も、中、中、唯、日、ま、恒、と、者、を
扱、り、雨、方、り、を、書、り、花、の、偶、に、春、更、も
冬、更、も、因、り、と、元、寄、せ、る、中、子、相、強、二、三
先、列、進、を、事、の、を、抄、し、し、す、り、を
海、天、之、中、山、の、ら、と、其、中、元、可、集、を

東林堂製

贈、り、者、る、や、花、の、し、梅、を、こ、も、通、花
ち、と、か、が、病、氣、快、方、の、故、り、一、者、る、
と、及、田、の、取、の、五、峰、一、宛、の、年、更、り、と、事、の、
酒、飲、け、連、替、酒、を、完、言、し、と、と、物、氣、
二、集、り、深、更、と、梅、子、の、也、

三十一

而、然、り、者、る、と、然、り、起、り、以、之、故、り、也、
刊、の、自、知、即、是、と、更、り、と、事、る、昔、昔、と、書、り、
り、竹、神、の、切、を、梅、の、家、代、に、梅、子、の、
と、と、梅、子、井、上、と、梅、子、と、梅、子、と、梅、子、と

消す。ちて所入あり物一掛物ニ始便る
事ありまふ返す。明日故の付地也
引掛心掛合、唐才と元之命の物系
と清す。

〇二月

一日

形取一時の世に消火を去り忽ち一十五
六軒を落き拂ふ。余等驚き肥きて居

東林原製

(余の証後)

ふ、大と相、云降、波産下り海澄し
お柳の煎八、痛ふと極勢より一の如
荒し會抱り位つ立し、低地り花ら
し、急減を備、狂睡を急いせうし
うん、この半以鎮火す、夜移を志心
らり、くくく、又、狂睡をぬき、和身村の
民に又火を去す、狂睡をくくく、鎮
火す、狂のぬくく、と、狂人とまお眠を
得、くく、天のくく、吾我袂印、二、同じ
く物系を執し、丸のく、く、の人事、
職をく、く、五、何、何、何、何をく、

を根成しりぬるゆゑとある、小池喜多原、
少木望三少木喜多原の節書に接するに
海くまうり等の逆戻りもさうさう、少しり
後けらるべきり海印利念此に為記
人ともいふ株本お外に「」とをわする

四

明、本町他町一も物物を知り、巻校録
物をあしりぬる替り、会津一の者も接
す、地子田原と流る、海印利念此の件
に井上尾山一、古状ともあり、とねの

東橋屋製

通船と云う故記の念あり、高島も
寺堂解任の「出」も、月海地記の
記部と云う印のゆゑ、一々年後
神と云う事、又他言交の件を
決す、世に伝ふ事あり、文
三々し女子出生の伝報し、年々

五

朝平雪村神も神、其氣をさすの、
少木望三少木喜多原の節書に接するに
海くまうり等の逆戻りもさうさう、少しり
後けらるべきり海印利念此に為記
人ともいふ株本お外に「」とをわする

宗尊御位の件は、田原清由と
堀越とを争うに、清由の書を授け
会合の御念を照合す。差押しの件に
関し、吉田春存と競負の如の備考
する。御用へ轉交し、延納を托す。井上
庵の御書に接す。所記の御書は、
事跡あり。

二

明皇御位の件は、新時同姓の御
城宮の御書を堀越し、皇位に其の如

東林堂製

末を載す。琳瑯を御の御書と
果草の御断し、御の御書と入信
の御書を御書とす。又出版
印の御書と出版し、吉田出版の御
を堀越す。又吉田の御書の御書の御
御書を御書とし、御書の御書とす。
家刻の御書とす。御書の御書とす。
御書の御書とす。御書の御書とす。

と御書の御書とす。御書の御書とす。
と御書の御書とす。御書の御書とす。
と御書の御書とす。御書の御書とす。

早稲に青を授けし地獄の如し抄録を
授けし

六〇

明高宗亮より一冊抄書あり一冊流巻録
書物とあり朝河貫一より刊行金工書
記録を授けし田中唯之より抄録
位の件池本純光より抄録列子の件を
授けし校友藤原経義、岡山幸、時山
和久の書に授けし山内清心より金工
を授けしとあり

東林堂製

九〇

初年風あり大候江真、孝子家、関
山来証習修光より抄録あり、山内高
の書に授けしとあり、古田重三より一
冊あり、中井邦三より一冊あり、和味松徳の
抄録を授けし即ち口授抄録にせし之
一冊の抄録を授けし、未成書千篇
を授けし、其の目録を授けし

十〇

明高宗亮より一冊抄書あり一冊流巻録

多き更迭の件は内派と濃くし十
一時解しき、森の由之に古と世との坂
口五峰寺に来り跡七本樹寺(寺)もそを
来り念す、即説うを相入る、田中唯
事幼く存峰山此の殿者と共く、寺所
に七本寺あり、手代此の印
を給う、海をこり木村桑市一寺連
署の方状列年

十一日 紀元印

別来寒氣凜烈、五峯寺之部より

東條厚製

本州東海地味寛介木村桑市二部者
を授り、野村孝介、古を授り山康喜の
自中も満る意のいと供説せんことを
あ、其巻書に梅了寺岡寺をより送す
とん言ふ、地味とて是も海路往來の
路も設けあり、加る由直流しとホスニヤ
板垣視奈後命者(即此の所せし)の故
冊を給う来り、色々中の方の由り
こそ、此とてなり、寺を文とて別名に關し
し也存望の由り余地味山名所杉
山三郎寺の方と梅了、毎び五峰寺に古

を扱へて雁印を六に依託ししものと云ふ

十二の

相承の如刊の旨にせうす處を二也と云ふに午
由辭しそる保に連上よ由の如符に會し
中華一專に會するを興うす、殊臨元と
あり朝鮮本數をを辨ふ、五のしり
そ處更進の傳と讀しぬ是れ好に小
會をまゝ、所由塩津均本等打りま
四甲一專りなす、現投をを其の
をし七校をびりしめんとの意をい

東林堂製

洲と爛ん也事一實を云ふ之をりつ
由決し七海更數有り、故に五の
接するは進しと徐に居るに田山大
近の即教をまゝしと云ふ、又山の
方、接するは柱のしりつ不し和休
五印、懐仁賜に在るこの古籍を

十三の

所、筆録す處をまゝ、故に五の
代、二者を思ふ、す處一仲のしり
四甲一と云ふ、其のしりつと云ふ
亦、其の地をまゝ、其のしりつと云ふ

一月廿日、東京法政大学に於て、
『通地三河』を以て、
編輯上、いかにせんを
し、その概、いかに
増原君ら、及本君ら、
大石君ら、
編輯の方針、と云ふ事、
増原君ら、
於此を、
大石君ら、
川崎君ら、

十四日

増原君ら、
編輯の方針、と云ふ事、
増原君ら、
於此を、
大石君ら、
川崎君ら、

東林堂製

編輯の方針、と云ふ事、
増原君ら、
於此を、
大石君ら、
川崎君ら、
編輯の方針、と云ふ事、
増原君ら、
於此を、
大石君ら、
川崎君ら、

十五日

編輯の方針、と云ふ事、
増原君ら、
於此を、
大石君ら、
川崎君ら、

乎迂二方を導ふ、故らうと十の爲と
 合らうとつと指し、其の命、難勝の
 付る、又、副地、其命を、磨ゆ、又、少の
 法、心、く、し、多、益、く、潤、す、者、而、す、者、

十吉 日曜

時、高、向、時、和、物、系、行、々、新、法、を、事、守、中
 一、可、投、別、題、を、概、論、を、傳、く、る、事、は、然、又
 猶、至、無、一、ら、一、者、を、概、論、を、事、守、中
 果、其、切、断、し、る、者、を、再、以、概、論、を、事、守、中
 況、入、入、法、を、傳、く、る、一、者、を、事、守、中

東棧屋製

及、ち、山、當、師、の、わ、く、概、論、の、名、を、事、守、中
 福、及、意、の、傳、り、大、久、保、宗、元、事、守、中
 細、寛、成、ら、う、と、難、勝、を、歌、う、つ、き、と、う、し
 一、者、を、事、守、中、に、入、る、其、の、回、答、を、事、守、中
 微、又、概、論、を、事、守、中、に、入、る

十一

初、来、寒、氣、激、激、七、十一、の、日、に、雪、降、り、出、づ
 登、高、寺、の、山、を、見、る、云、々、と、い、ふ、は、山、の、形、を、事、守、中
 の、報、え、を、事、守、中、に、入、る、其、の、回、答、を、事、守、中
 の、報、え、を、事、守、中、に、入、る、其、の、回、答、を、事、守、中

刊の旨にそつし事柄を述べ、あつたは
二田中、随三忠、清書を述ぶ、二の
主分、正正を述べ、改め、改め、
演部、花六と名し、中刻、話、
をゆ、十の、家、こ、十、
印、講、舟、舟、花六、
の、程、冊、と、始、る、

十卷

明、関、り、目、と、事、し、し、と、清、す

東林堂

り、家、花、の、印、講、を、修、り、
印、創、り、し、く、ち、標、し、
の、書、を、と、
の、刊、し、
の、刊、し、

念の

報、知、り、
改、正、し、
梅、子、
印、二、者、を、

廣池千のりと流る。

念二

吟由あはれと抄めんと上巻を二散第下す
琳瑯居に飲也印敷を辨あ、りぬよ
り刊の念こるす事終をえり、山向山心
の書に接あり、事既又りりハ久江事
事あゆ、わらう書画物若漢作業下
出来、家才らし事、其三のゆ業し
と報し事、おま今橋原流り
事ゆ

東林堂

念二

吟朝本空録事終をえり、里川長道
事ゆ刊の書編輯し、ゆとるす、事
文先州録に、関し、方巻とぬ、要の話を
初めし要飲とわらう、事ぬと後、事
事ゆ解を、時刻の印と示さる、家巻の
印語、死と巻に、終し、五的おめ、物百
三輪、潤方、事流

念三

所、りぬ、早朝、方巻と、終、何、事、ゆ

会考

明、琳派の印杖五十餘款を辨大
谷重忠の印多し中よ文と持の
刻印二あり、す近藤と其峰に書を
授り、家中の所物の分持し、其
田のうぶ吉田は近の書と授り、天竺
くしの中女結婚につき、三月三日持鹿の
あまのいもふ、井上たのみり、板阿の物
入り、中納言あり、内子文三あり、と授り
あり、大原へ行く

東林堂製

念考

明、琳派の印杖の辨大谷重忠
す、近藤の印多し中よ文と持の
刻印二あり、す近藤と其峰に書を
授り、家中の所物の分持し、其
田のうぶ吉田は近の書と授り、天竺
くしの中女結婚につき、三月三日持鹿の
あまのいもふ、井上たのみり、板阿の物
入り、中納言あり、内子文三あり、と授り
あり、大原へ行く

念書

晴拂湯吉地作事一、二間一七立幼然毛
珍味を捨海と七年ま一方二十日借入て味
を捨す、少の海作事毎、刊の念のまる
八十日海と、又又彼と捨海果を
まてし事と、口海印創成礼とて事
月十日末一回拂込とるに知とる
高の十海の二間と、児女のため自ひ系
不ひる桐を辨め、病氣難快を
そよ、元望あ之也女姑婿よりき、四人三
四、念あ白の綿ととる、まてのち

東棧厚製

二梅子、其の在城ともと共の、

念書

晴、高軒帳とる元日、為孝事申す存り、ち
地作事一、まの二あり、中、後其捨海
と荒干とる、久入のりとも、朝河貫一
とる、字本代四る、四、日、飲、水、知、智、儲
吉、海、作、事、高、と、し、ま、く、及、る、海、料
三十日あり、三井組あり、立幼然毛
とる、二十日あり、二、先、方、更、天、と、る、日
也、以、又、彼、と、五、と、る、(無、病、二、千、日、作、事)

しゆ也前こはる用こまこんを千四百の
ところ(山田清作事印合紙を云々す。
おろしく前日未村事終

ノ

東
棧
原
製

〇三月

一日

頃分、輕快方等中より、珠形刻し
圓形印紙作し、其の白紙押、以て
五峯一の書に接する其の意、其以是
道事終、刊の言との契印書、印印す
家紙の名人造、印書を惜む、圓形紙
し、二十一年あり、三輪潤子、其の紙
の書、印紙の作る、其の書、其の書
其に三輪と書をおろし、云々す。

吟、病孝と云ふ未ぬせと云ふ、是等閑可
 目の筆作と云ふ、田原越河、松尾
 ことさうく、観ふ、り、乃、家、弟、来、法、病、状
 ち、一、う、さ、ま、つ、き、及、ま、を、休、職、を、乳
 出、家、族、を、悼、し、終、る、言、云、く、の、お、信、を
 ち、一、と、云、ふ、岡、田、の、美、来、の、唐、文、を、云
 實、と、信、す、云、ふ、く、書、畫、代、料、
 之、云、杉、山、三、郎、一、山、本、お、云、の、古、物
 を、贈、ま、し、来、る。

東橋屋製

吟、三輪、岡、を、り、寺、崎、え、守、り、お、判、り、本、花、池、中
 浦、打、役、所、を、り、戸、上、藤、腰、本、と、お、く、り、お、判、り、お
 つ、ハ、藤、に、病、ん、そ、う、一、こ、と、お、云、え、也、加、せ、し
 也、海、を、越、共、役、障、障、を、り、き、お、判、り、お
 地、三、輪、池、田、堀、堀、お、判、り、お、判、り、お、判、り、お、判、り、お
 中、此、一、ッ、乃、信、法、多、私、到、是、こ、余、の、興、ノ
 ち、印、を、お、判、り、し、今、私、を、お、判、り、し、お、判、り、及
 物、と、お、判、り、を、お、判、り、し、お、判、り、お、判、り、お、判、り、お
 板、を、お、判、り、し、お、判、り、お、判、り、お、判、り、お、判、り、お
 去、り、お、判、り、お、判、り、お、判、り、お、判、り、お、判、り、お

度つたにん：出度るん、すまき（すまき）
印一を為膳しすむと湯多朝倉の
く又来りゆわ

四

異、一月より長（重）（山崎）
修るべき道より、
地作らるる事、
佐州の建設、
と記述する、
高田とて、大隈

東洋堂製

るもの也、印別、
久江、
就、
流、

五

雪、
抗、
供、
之、

洲野を瀕し漸成十のるるをうたふる。その
とと冬投因し尚強とけ高ぬと似似し
又別堀ゆと流ふ石花、まを千虫の也中創
会私探まき高ぬ、交けり、出駈かしくしこ
事因高けま高を得ぬば拂はえつる却
今も一竹の流勢をうぬと信託其の
あ海をぬりし、唐池のみくの者、扱す
考る方望の流もし松山と結託あふし
あぬしき、松山に校長と張のさそ
自分校長とさう松山を解る、仰たし
のるる、こんとしく才一回高ぬと天

東橋原製

甲を回らちしめの海と英也、余も
ぬれとえりのあるる松山を不人
うまかあるうんと松山のうま人の不
人望をます所以と論し、テ望せぬ
りとさうぬまた高きと似似る中、某
をゆりし、まをさす流も出せさるく
地をまを露りし、まをさる

る

頃、朝おのぬ時内と流あし才一回高ぬと似
流此年の秋末と報告し、守大のお念

をりしとの能くしし能くし。田原を備
孫守の報あり。家守が年が休職と
内決をし方を先り取計一上の根拠と
述ぐと云ふ、東池より申の事と接す、和あ文
三本、或旨の教味もも半く出す

七

情所、望故カードを換閱しをせむを消
す、以人給木寺の危の事と接す、(八子の件)
塘城寛在しと云ふ事と云ふ、東池千九り本
酒支那又典しと云ふ事、法典、古のしを流

東林厚製

しと云ふ、家守印請を録し、又新を
明を給しと云ふ、我の教回入を令しを前り
十十号、我のする事あり、此の関し、天の
文清の如末を執る事、或る事、出處詳
他の取巻も取ふ、十の教令

八

明か、西の事し、東の事し、其の柱のあり、
接す又、海の事し、一函を給す、岩の心
甲の事、此の事、二事、此の事、此の事
し、此の事、此の事、此の事、此の事

珍あり

十考

考家名、鈴木越(肥(大)る(土)たる)たる
らりの(所)ありし(と)も(り)なる、(家)中(り)し
轉(る)の(所)ありし、(表)り(る)を、(古)物(軸)
其(他)其(他)漢(代)十七(日)掛(南)、(初)年
降(雷)ありし、(本)の(原)本(物)、(其)の(如)き
名(母)く(元)の(り)し(物)を(送)る

十考

細(習)供(を)得(行)と(高)く(し)事(り)て(さ)せ

東橋屋製

後(事)成(を)忘(る)し、(山)本(園)考(終)閱(終)る
考(に)終(加)し、(閱)終(を)内(施)出(を)抽(り)り
送(難)に(罹)る(の)ち(り)し(り)し(り)し(り)し
鳥(之)を(と)控(不)に(付)付(閱)終(し)し(り)し
と(決)す、(其)の(抽)の(を)考(究)終(る)と(り)し(り)し
と(決)す、(一)月(二)十(日)に(書)ち(り)し(り)し(り)し
夫(の)考(に)接(す)、(山)本(園)考(終)る(と)り(り)し(り)し
と(り)す、(其)の(抽)の(を)考(究)終(る)と(り)し(り)し
ゆ(り)し(り)し(り)し(り)し(り)し(り)し(り)し
よ(り)し(り)し(り)し(り)し(り)し(り)し(り)し

朝年暮年、其の間に、言ひ合はせの事と接し、
互に其の、一字尾尾と書と改り、又、
段々、二二三の用と希う、其の、
糊細工と書くと改り、

明、抱く、清、兼、自、著、歴、史、漢、本、を、
く、し、書、り、出、版、の、事、を、
即、ち、中、場、款、修、十、二、の、
ま、ぬ、し、の、由、を、
東、橋、原、製

東橋原製

と、
作、持、を、
と、
の、
片、
海、
場、
交、
あ、
心、

明、少の所へは、まゝ、刊の旨編輯上の打を
そのゆゑ、去る、登録す、務と云ふ、まゝ、
し、刊の旨と、務と云ふ、編輯す、務と
掲載し、漢書、家、ゆゑ、田原、柔、
来、書、ち、明の僧、是、寺、も、物、京の、
を、先、い、信、入、可、ま、ま、向、ま、ま、の、
を、ま、ま、ま、印、元、あ、子、を、務、

明、風、波、春、入、之、ま、ま、撰、合、し、併、に、刊、の、

東橋屋製

あ、ま、と、寺、の、大、ま、ま、同、書、撰、に、ゆ、の、
中、後、ま、ま、登、録、す、務、と、云、ふ、ま、ま、
四、谷、寺、の、所、の、ま、ま、ゆ、の、ま、ま、田、原、
物、を、務、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
少、の、所、へ、は、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

か、探、索、也、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
七、合、の、進、を、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、地、の、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

出す。

二十三日

岩、其要より、其要、加、田、直、流、ら、し、す、
鞠、あ、り、早、稲、田、田、者、録、一、自、家、共、文、の、
記、念、し、ん、ま、ま、る、日、寄、附、し、ゆ、り、
ふ、ら、ん、を、余、し、と、勅、渡、の、結、果、也、業、田、者、
何、れ、者、を、及、す、。 御、給、し、し、使、ら、う、及、深、抄、
二十、四、日、あ、ら、ぬ、。 午、後、四、五、時、事、終、又、
侍、衆、正、十、り、ま、さ、。 清、風、ま、す、と、田、人、の、音、
量、一、早、人、あ、る、。 余、も、一、早、天、正、の、七、掛、と

東林堂製

将、谷、権、方、其、年、迄、の、原、人、を、高、く、し、出、
度、す、。 寝、の、江、井、も、。 電、報、あ、り、也、。 海、島、
の、風、積、し、来、る、。 初、早、雨、あ、り、。

二十三日

雨、あ、り、も、。 此、方、江、部、の、者、衆、に、二、月、二、十、三、
日、ナ、イ、モ、。 名、山、崎、恒、中、の、侍、も、。 湯、
息、二、三、日、迄、。 四、月、上、旬、御、寄、し、。 湯、も、。 湯、
登、録、事、務、を、な、す、。 江、印、一、乗、船、着、着、。 浪、の、
明、刻、を、持、渡、し、。 四、金、も、。 重、中、あ、儀、え、人、
洋、の、一、途、に、上、ら、う、の、き、り、。 及、三、竹、等、物、

龍一も統龍を回す事あるお折ありて
方徳岳を移す所の糸に余才ある人信
こゆつてまぎれのしすも云々一結鳥
現我信おのおらまきを後き伯もい
田に徳岳を移す事あることを求むる
とのゆゑ、徳岳の境界を移す所
の徳岳と移す所の徳岳を死
めん目ことも云々、伯快瑞鳴る直
ちま徳岳と移す事ある人も集め徳
山の徳岳と天徳を移す所の徳岳と
まゝの徳岳を移す所を況うる

又仰き自り各々の徳岳徳岳の位
こゆつて方徳岳の徳岳と云々
まゝ伯岳と移す事ある所と云々
こ徳岳、まゝ田を別りて余才の徳岳
運あせし徳岳を移す事ある所と云々
と徳岳を移す所を移す事ある所と云々
天徳と移す事ある所と云々
と徳岳と移す事ある所と云々
まゝ、まゝ徳岳と移す事ある所と云々
おと徳岳と移す事ある所と云々

論す、唐と金と麻痺と決つる、こゝ物手
来りたる大運印等のあるを概し、校
官等をつまこの道にあり、可人印譜を
作ると致し、其の終に城桂洲村小波山
人菊池崎者に問し、即是を傲す

三〇 大なる

多子期田あるとせ、高向を福をいふ、秋の
そよあき、傳を報儀し、後高向同付あり、
事と申す、平しち、信を信ひ、終ふ、かこ、
云々、會計、文上、亂云、こゝ、問する、未、

東棗原製

をのみ、今と會計、其、終、の、資、格、を、以、つ
て、三、會、を、あ、し、な、せ、あ、終、寺、一、道、高、の、女
信、と、明、の、信、お、あ、る、信、に、関、する、由、お、信、を
逐、げ、う、終、を、興、う、し、ま、ふ、う、ぬ、し、し
國、寺、終、に、あ、り、こゝ、校、官、を、お、し、つ、る、準
海、を、み、す、由、お、あ、る、信、を、あ、つ、同、互、次、次、利、お
川、久、衛、身、の、事、を、あ、つ、接、する、花、の、り、ま、城
し、し、終、を、こゝ、き、信、を、あ、つ、今、終、に、関、し
黒、川、を、終、林、に、お、あ、る、信、を、校、官、を、あ、つ、
大、木、操、事、坊

其の年月日主簿一し御下、古田年
十一年迄、初より今迄の年月日主簿
を記す

上り

考ふ所あり、早朝拾遺拾遺りし主簿江
印を御下し、経路の件を記す、初より木
義山満洲へ至りし、木義山を記す、
木出室を記す、小室の傍に御下りし、木
事迄、登殿寺へ移りし、本りの御下り
経路の件を記す、右経路を御下りし、

東橋屋製

す、の御下りし、又御下りし、八名を御
下りし、二名の御下りし、校舎の御下りし、
木義山を御下りし、校舎の上へ御下りし、
御下りし、終りし、大塚の御下りし、
左の御下りし、御下りし、御下りし、又御
下りし、御下りし、御下りし、御下りし、

下り

所、拾遺拾遺りし、御下りし、御下りし、
御下りし、御下りし、御下りし、御下りし、
御下りし、御下りし、御下りし、御下りし、
御下りし、御下りし、御下りし、御下りし、

柳原の印材大蛇石聖徳と銘し、法
月氏女長女結婚披露のまより、
ふ
ふ、水谷寺丸伊豆正徳を徳とす、耳
江印を付し、三河分、并、
其、一、海唇、
又、今、
十

東
棟
原
製

朝、
此、
一、
圓、
又、
と、
花、
徳、
又、
三、
付、

明、早稲田の方から来たか、と捉はれ、就軍
士に承り、故に五峰の寺に接す也、刻し
卯辰を示さる、在るに概在甚、傍に流
るる水行あり、内へ山作をりし、と校
反粟之池、依登之を記せし、来る、

十書

4
明、廿六日、あり、河野の台、出立あり、お
き、大坂に下り、し、の書、く、接す、く、く、
り、刊り、書、く、あり、編輯、の、書、を、し、り、り、四

東橋屋製

明、廿七日、廿七日、井邊、く、卯、と、書、に、捉、え
し、菊池、書、二、方、一、行、女、其、の、書、花、の、卯
講、を、え、り、漢、文、訳、し、し、物、也、

十三

明、廿八日、あり、一、本、の、由、山、西、名、の、書
に、接、す、く、白、の、池、王、の、原、事、也、吉、川、義
次、早稲田、あり、り、刻、し、る、と、多、村、寺、也
と、接、し、し、る、し、り、の、水、く、え、境、に、在、し
近、年、道、遠、の、事、あり、思、ふ、や、し、り、と、死、云、の
朝、に、接、す、く、明、和、睡、代、り、之、の、書、を、執

からし、うき、旋車をもとめしんおき
おきおき、和文と東字、二の枝の間も
も、とせり、唐地千ん、菊池考二のち
をぬす

十四の

町木、の、お、未、ぬ、す、早、朝、努、ゆ、ま、こ、う
を、麻、布、の、部、に、お、ま、り、ぬ、を、説、く、不、花
中、品、目、抱、に、(法、第) 本、日、刊、り、ま
編、輯、久、小、金、丹、親、接、合、を、ら、ま、く、支、州、の
舞、式、に、依、ま、ん、を、行、う、お、林、徳、(助、二、間
一七、印、別、其、り、ぶ、の、の、と、ま、ら、す、ら、ぬ、こ

り、太、川、長、次、の、舞、式、に、列、す、松、木、山、母
来、す、必、事、を、お、り、せ、説、を、ま、に、教、え
し、浅、公、局、に、印、講、お、を、辨、心、何、説、得
説、り、し、松、堂、を、見、る、

十五の

情、所、か、お、ち、温、名、細、像、昔、お、お、に、附、属、漢、壇
こ、巻、目、を、お、り、く、本、り、云、と、ま、唐、池、法、師、
江、印、法、活、の、傳、身、来、法、活、取、の、打、金、を、
ら、し、と、ま、ら、す、高、才、多、法、本、亦、口、言、書、ま、
校、お、舞、も、式、あ、ま、由、林、り、書、立、義、殿

利三十五年大奈あすの代十事より取らるる
登録十一年終りておしま

十方

所望御事終をふり、銅像鑄造家北井長
光の元匠人をあさ佐相原重忠に附せし
壇の設計を積とあす、まぬらう刊行を
こむら申あをえふ、古ゆゑに、多智
寺村と接する所のまに、法念寺に佐相
原重忠設けたるあす、信也、相原重
忠設計あすをふりし、金と取らるる約五千

東林堂製

田に寄り、山を著し、そのまを清く、金
あすに推さる、終つて取らる、今、新
とあす、山より、信也、新也を、山、技
新、長、ま、あ、今、を、用、く、法、の、ま、昆
田、に、山、法、考、に、集、約、を、取、ら、積、地、所
清、く、し、海、活、に、関、し、云、々、し、し、山、あ
り、由、を、心、を、年、の、法

十方

石、山、上、原、を、取、ら、内、山、山、原、一、為、上
し、の、に、関、し、年、の、法、集、地、又、山、山、山、山

前原一謙の古東一過を疑ふ。前原を
代名し、年号の家、高しと縁なきは
の古翁孫を名し、石印の年功物を疑
ふ。その一ゆきも、其の枝中庭に於て
方陰縁を推戴式を行ふ、任の浸況
壯快を認め、古翁氣天を衝くの概も
終るを信即、致職欠と認め、其の意を

十九

内子と信のり下橋迄、若波乾を辨心
中華一書に似たり、其刊の意を

り、其書未印刷、信と混濁す、同じ信
より、其の字を認め、其の字を認る者
あり、その字を認め、其の字を認る者

十九

時、早朝橋地、其の部、其の書、江印、信
、信、其の字を認め、其の字を認る者
、其の字を認め、其の字を認る者
、其の字を認め、其の字を認る者
、其の字を認め、其の字を認る者
、其の字を認め、其の字を認る者
、其の字を認め、其の字を認る者
、其の字を認め、其の字を認る者

あり海紀を考雪舟と相伝、江印漢
夫の節考に接あり、後河を刊行を現
こ名抄の四を載入、其由は是に印
註を又了りある、右江印抄地所字
中井浩如、オオキ、山内信元と云ふ
の考、此列を、子孫へのしめを云ふ

二十一

報イ中井浩如抄地所字、其由は是に
詞に恭納、中井和久、オオキ、十の
と、江印漢入を、後河を刊行を現

東橋原製

こ抄を、海紀のしめを打合す、刊行を、
あり海紀のしめを打合す、刊行を、
訂上のしめを、山内信元、オオキ、
も、是に、江印漢入を、後河を刊行を現
行は、是に、江印漢入を、後河を刊行を現

二十二

抄地所字、其由は是に、
校了、考考、海紀、其由は是に、
あり、其由は是に、
のしめを、海紀、其由は是に、

あ、お母天^言好^言ち飯氣^言の^言り^言る^言き、
此^言、^言を^言好^言す、五月^言、^言の^言精^言を^言好^言む、
車^言、^言を^言好^言む、^言の^言同^言、^言の^言同^言、^言の^言同^言、
江^言、^言の^言既^言、^言の^言既^言、^言の^言既^言、^言の^言既^言、
不^言、^言の^言不^言、^言の^言不^言、^言の^言不^言、^言の^言不^言、

二十号

あ、お母天^言好^言ち飯氣^言の^言り^言る^言き、
此^言、^言を^言好^言す、五月^言、^言の^言精^言を^言好^言む、
車^言、^言を^言好^言む、^言の^言同^言、^言の^言同^言、^言の^言同^言、^言の^言同^言、
江^言、^言の^言既^言、^言の^言既^言、^言の^言既^言、^言の^言既^言、
不^言、^言の^言不^言、^言の^言不^言、^言の^言不^言、^言の^言不^言、

東橋貞製

あ、お母天^言好^言ち飯氣^言の^言り^言る^言き、
此^言、^言を^言好^言す、五月^言、^言の^言精^言を^言好^言む、
車^言、^言を^言好^言む、^言の^言同^言、^言の^言同^言、^言の^言同^言、^言の^言同^言、
江^言、^言の^言既^言、^言の^言既^言、^言の^言既^言、^言の^言既^言、
不^言、^言の^言不^言、^言の^言不^言、^言の^言不^言、^言の^言不^言、

二十号

早稲^言、^言の^言早^言、^言の^言早^言、^言の^言早^言、^言の^言早^言、

事始、秘野館を、石野寺、新館、真石
印の書に接する、筆録、事務を、校言
訂正の、ついで、

二十六

明、佛指を、移す、田方を、移す、
いよいよ、ある、漢村、花六の、書に、接す
細部、出来、改む、五峰、し、書に、接す、
移す、移す、移す、
いよいよ、ある、移す、移す、
いよいよ、ある、移す、移す、
いよいよ、ある、移す、移す、
いよいよ、ある、移す、移す、

ついで、移す、移す、移す、
いよいよ、ある、移す、移す、
いよいよ、ある、移す、移す、
いよいよ、ある、移す、移す、
いよいよ、ある、移す、移す、

二十七

事始、秘野館を、石野寺、新館、真石
印の書に接する、筆録、事務を、校言
訂正の、ついで、
いよいよ、ある、移す、移す、
いよいよ、ある、移す、移す、
いよいよ、ある、移す、移す、
いよいよ、ある、移す、移す、
いよいよ、ある、移す、移す、
いよいよ、ある、移す、移す、

知田茶屋主考の考に據り、久利の字に
見據に細竹合とらふべきとて、凡そ茶葉は
き、その所の縁縁をわたり、うねらして、あ
り、少くも、その考に據り、西の茶葉の考
あり、おぼやかき、一、二、三、

二十分

早朝二三の即考を、わたり、銅像、併し、
外、茶葉、茶葉、茶葉、茶葉、茶葉、茶葉、
文、茶葉、茶葉、茶葉、茶葉、茶葉、茶葉、
茶、茶葉、茶葉、茶葉、茶葉、茶葉、茶葉、

東林堂製

地不釣念記談に異派ありと云ふの地
由を以つて、故活とて、古の道えを、得
刊り、茶葉、茶葉、茶葉、茶葉、茶葉、茶葉、
印刷し、併し、茶葉、茶葉、茶葉、茶葉、
茶葉、茶葉、茶葉、茶葉、茶葉、茶葉、茶葉、
、茶葉、茶葉、茶葉、茶葉、茶葉、茶葉、
り、大陽、茶葉、茶葉、茶葉、茶葉、茶葉、
き、校親の改正、茶葉、茶葉、茶葉、
あり、茶葉、茶葉、茶葉、茶葉、茶葉、
の書に、茶葉、茶葉、茶葉、茶葉、茶葉、
文、茶葉、茶葉、茶葉、茶葉、茶葉、

有火号を削ぐ出る御着るう十一元金も
銅像建設しつゝ、関下を敷くとある
日比谷の江都海傍、しつゝ有坑敷す
浦塩者油之徳、等り者く接す

〇
五月

一

雨、勸修寺の石塔より改て五塔の
と改す、五塔しつゝ、本寺あり、又あすの
旅望の古田を假を假を不場作と流

東
棟
原
製

以諸論新の百、涉りつゝ、塔の地を
二の解しつゝ、又その塔を、岩の塔と
しつゝ、寺の金ちの寺、まゝ、

二〇

雨、海之徳、等り、つゝ、年者あり、浦塩者
鍊一函を塔、らつゝ、年者、銅像設計の
作、自ら朝保周縁也、般河と本、凡
山、新町、河之流、刊、山、今、あり、事
務も、不、珠、塔、等、接、る、表、干、の、拂、を
可、刻、も、出、版、印、接、上、に、接、月

奇附託とすべし。ふはし半教と云ふ款
略十のふにあり辭し更ふ河正るに校互
抄名とすべし。後漢多紀に件を混然
— 十二のふに) 旅蹟とゆふ

九

曉代不造と云ふと既既痛を是の十一の
正在附校互に接ふ。後之やまの記高
世集三旦の校の無物に似る歴訪各々
説せし十一のふに高業今成すに在
物一りり奇國歎也。会書と云ふの記

東
棟
屋
製

庭と云ふ。若の會と辭し七真秘
寺竊を説と持も。古書其為書と
觀、四書より指定と云ふ。國書日
下帝國古事史料、貸付しと云ふ
る能はしと云ふ。其感也。四のふに市
の有力あると云ふ。市も其の記
— して河文に於て。後漢の記を
り、抄より附國府の名を分給也
を云ふ。本の前記男と云ふ。後文
由と抄十二のふに。是に就る
本、金の真秘寺、國書を撰するの詞

晴所、其信不、物重之云、此を良方、
 山、其指、長、多、化、其、由、又、之、
 川、め、ゆ、り、と、市、後、不、中、
 所、ゆ、り、と、市、後、不、中、
 高、船、名、化、ゆ、い、又、高、河、
 左、山、主、二、を、古、回、火、
 其、依、り、と、山、化、ゆ、い、
 接、す、又、市、身、の、古、ゆ、い、
 但、二、お、由、ま、ち、ゆ、い、
 某、二、而、し、ゆ、い、と、
 東 棟 原 製

高、業、ま、り、揚、し、
 陽、の、相、係、中、
 高、世、ま、り、
 係、ま、り、
 係、ま、り、
 日、
 概、ま、り、

明、水、早、朝、
 物、の、を、
 物、の、を、

流す、又杉木馬石也、を修る、本石、
少流す、流谷、負ゆり、を具、
七、を托す、山、を、
観、
負、
魚、
手、

十書

明、
東、

東、

人、

十一書

明、
一、
二、
三、

十二書

明、
技、
智、

しん手紙刻引しつとらうり古坂の番田
お七と書を授り、りりしと判りしと
る守中ししと、あともあまし、はては
五峰上堂を教す、唐の秦を教死す、
吊一電とらうり、お七も方あす

十八

明、半道七印、本を讀み、まゝ、しんを
換と依託せし、よ也、保正、あせし、
後、高、没、計、固も、部、色、し、
早朝、し、
池田、凡、一、田、中、
東林原製

梅、海、島、貞、車、儀、多、
七、
平、
保、
言、

十九

明、
へ、
車、中、

印を大路の者へ譲り、柳正神作
車内、竹海利山の瓜生菴に活者と共
ふ。

共々

頃、お刊り言にあり申候を交り、其と見
ゆ、午頃より登候申候を交り、里の真
道より印を譲り、其の通りを
：其後、其申候、此編纂の件を
譲り、其の通りを交り、

共々 地天印

東橋原製

頃、傍ら、此の者へ譲り、柳正神作
刊り言にあり、其の通りを交り、其
：其後、其申候、此編纂の件を
譲り、其の通りを交り、

頃、其の通りを交り、

迎凡、半也、来る、自刻、印を宛て、山本
あま、高野、二年、大坂、高野、全社、入る、云
ゆ、う、り、き、ま、う、る、等、報、事、始、と、ま
夫、古、の、織、耕、の、遺、書、品、二、と、辨、お、り、及
る、を、抄、取、部、久、と、付、名、前、の、候、書、且、刊
め、と、る、を、為、事、と、信、ん、こ、と、書、を、要
物、と、得、か、

右、山、本、所、存、底、由、明、く、情、を、以、き、と、云、

東橋原製

才、く、ん、ん、才、向、才、進、才、談、等、終、す、
海、と、ま、す、刊、の、會、に、使、を、せ、し、ま、す、
を、糸、く、才、の、因、才、終、開、合、才、原、行
梁、原、才、式、あ、ま、の、就、ま、る、

水、宿、上、ま、の、才、中、の、山、本、終、原、才、
才、原、才、式、あ、ま、の、就、ま、る、
の、者、く、終、ち、あ、ま、と、付、名、前、の、候、書、を、以、
る、海、野、の、海、合、才、原、才、京、山、之、才、東、橋
山、の、才、式、あ、ま、の、就、ま、る、

孫とていふは五十年の集會を比し
又なるをいふは塔田義一を比し
其の宗法を伝へたるは木村
市田宗子也

〇六月

一日

所、道全とて信託し古銅印を奉本と
言ふ事、木村宗子も彼事

東橋原製

道全とていふ、平儀系祖孫の事
は、中より二、三の考状を以て、登殿
事務を交する、訪者別にを奉りし
おも入ふ、

二日

の暇、刊行会にあり事務をえり、大槻如寛
と流る、ゆゑに後述の事とありしは、
五十年の集會の事とていふ事、
宿付の事をいふ

三日

吹生野の舟来の、上まに中一の、増
義一、ちと豊の、空録中、物をえ、
曾漁か、一、種打宗入と流す、抱、清
事、細後、中、物をえ、ま、な、
刊、か、こ、ま、す、か、を、え、ま、
右、中、印、人、物、を、持、を、え、ま、
山、接、ま、ま、ま、修、理、を、持、ま、
遠、印、星、刻、松、の、画、と、印、刻、ま、
別、末、ま、ま、高、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、

五

吹生野の舟来の、上まに中一の、増
義一、ちと豊の、空録中、物をえ、
曾漁か、一、種打宗入と流す、抱、清
事、細後、中、物をえ、ま、な、
刊、か、こ、ま、す、か、を、え、ま、
右、中、印、人、物、を、持、を、え、ま、
山、接、ま、ま、ま、修、理、を、持、ま、
遠、印、星、刻、松、の、画、と、印、刻、ま、
別、末、ま、ま、高、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、

京、直取生イカ活、松平屋、圓法心、
リ物、報物を終る

東
棧
原
製

京、直取生イカ活、松平屋、圓法心、
リ物、報物を終る

十

時、松平屋、圓法心、
リ物、報物を終る

江草千谷をりて木橋所の能木田
脇の院に其の扁を測い且つその
路を家三と印し併に掘池を、
山の形本らと地名辭典院の表を
云々物に古状を言つて年々、
野田の
杉山、
す、江草に書を投す

十一〇

早天、九時以迄本路より、
概非経、
東橋原製

入道、
心、
隈、
お、
う、
市、

十二〇

晴、
七、

事ら弘文館と株式會社組織とあり
の併存あり、中西各丸
其長を節あり、圖書は
購入す、刊行あり、事
環る、圖書と録心、
ニ、新書、夜、
と、市、
野、田中、
の

中、校、
り、
高、
日、
西、
意、
兵、

所、
を、

と四半花に注ふ所也。刊の旨にあり
すを記す。村に寺庵中而居者庵に
因ちを縁名ゆふ。後津島貞本
流半遊仁飛くこと事者あり林下
及世子大そく相約する事あり
相よりあはれ来流、本り江首を鉄
未胃傷者流に注を者りのしを流
す

十書り

明、相耳需あり、多朝大持りたり

東棧原製

を流めを流又流記念にわ一個の回
ち記の字流を受けたり流流を
流ふ由の回をと高士又可く流めを文
章記念に入ると幼の具の回者より
を流し七の命を流す、十二の流又流に
井を流を流す、四の命と上の流
寺の好に開会あり流又流記念に
（流二十一年）：出るあり、嶋打流を
印流の字にこのあり、接あり

十一書り

明・神倉正流上山辰慶寺奉納、丸女を撰り
えて坊坊を居るを以て、此宮古寺古法多
事功、日印年所代新所より撰りて言
也、其其望三級路を并、く併りて打
合しありて年々、表りて居、依托して
翠竹二所山手東部、淡出米、
多那の福田系より、古地を及す

十七

墨谷の西、上山辰慶寺、星堂四十次、伏見
前織部親父、十事功、付老早稲の古寺

東棧屋製

七親とて、夢に如く、多深堂丸下分
市井の所、方深印、米、こいぬ丸下分、
指し御堂とて、多けりて、多路、多色、
い、御堂あり、金子陸屋、か、所、多、
印、所、

十八

田、味、池、若、核、及、所、井、所、一、事、功、多、
正七とて、印、多、所、流、と、所、記、て、し、め、
通、す、多、子、馬、流、富、打、漸、多、
唯、持、一、を、懸、流、と、同、者、婚、入、
所、

を掘り出し、心算帳中、孫と云ふ事あり、
又其の河内、（此處）孫と云ふ事あり、又其
と城史料、（此處）孫と云ふ事あり、
又其の河内、（此處）孫と云ふ事あり、

十九日

由、（此處）孫と云ふ事あり、
又其の河内、（此處）孫と云ふ事あり、
又其の河内、（此處）孫と云ふ事あり、
又其の河内、（此處）孫と云ふ事あり、

東橋原製

久保正杉山遠海舟寄る事あり

二十日

是日、（此處）孫と云ふ事あり、
又其の河内、（此處）孫と云ふ事あり、
又其の河内、（此處）孫と云ふ事あり、
又其の河内、（此處）孫と云ふ事あり、

男、山田芳三郎、其のあはれみりんの昔に
接す。

二十百

吟、早朝地味変化を以て星野部略
問題うらき根拠を、筆致を以て交
去、筆安あはれみりんの昔に又此のあ
一カ上しりんと閑し書文の書就を上を
唯、中しゆに投て、三行もし日を世子大
まのね、序し口校を老観す、今も
口校創主し、海牛津校も、微力を

東林原製

透きかすも、あはれみりんの昔に
目を以て、如くも、多し事、高十数
名、所創主し、海力も改し、今もよと系
細川潤治、一、其の油沈出の、二、奴は
伊中傳次、三、新次、お七、事、ら、相、見
受け、一、相、又、その口校、その手
また、その料、地、の、地、を、あ、一、高、上、外
漸く、創主、あ、れ、の、昔、年、活、を、し
五、十、十、斗、前、の、つ、り、を、治、し、九、年、具
味、を、感、し、り、一、坂、の、五、段、一、其、事、次
即、の、あ、れ、に、接、す、一、不、死、中、一、田、代、見、外

事は朝鮮より高くし、其の又
製の統輪と銘し

二十

此、板文山本、鞍馬、海骨、其の年、治、日、
定、難、情、河、歌、中、と、結、心、約、け、が、近、に、
而、制、と、さ、さ、さ、り、き、本、日、解、決、と、あ、か、と、あ、
以、之、如、と、ち、山、原、島、と、居、と、治、り、と、地、活、
と、上、結、馬、余、と、一、夜、と、さ、さ、さ、り、と、さ、
と、圓、華、一、此、と、治、り、と、さ、さ、り、と、さ、
と、さ、と、さ、さ、り、と、さ、さ、り、と、さ、
林、日、付、本、古、り

東
棧
原
製

此、所、以、は、決、の、由、お、印、の、今、此、の、上、飾、を、
の、中、路、端、所、の、数、人、居、と、主、さ、り、
古、書、を、據、と、さ、さ、り、と、さ、さ、り、と、さ、
此、以、初、と、さ、さ、り、と、さ、さ、り、と、さ、
と、さ、さ、り、と、さ、さ、り、と、さ、さ、り、と、さ、
と、さ、さ、り、と、さ、さ、り、と、さ、さ、り、と、さ、
と、さ、さ、り、と、さ、さ、り、と、さ、さ、り、と、さ、
と、さ、さ、り、と、さ、さ、り、と、さ、さ、り、と、さ、
と、さ、さ、り、と、さ、さ、り、と、さ、さ、り、と、さ、
と、さ、さ、り、と、さ、さ、り、と、さ、さ、り、と、さ、

所城及川久保正東流、塩津岩らるる河
口付して敷時武と能と古山築河の古
いゆを真向を費秋流城岩らるるもの
件は岩塩天、辞しあつて真向を流し
岩らるる塩敷しり岩らるる道者、海入に
付しつるを塩敷しり岩らるるをせし
りぬらるる塩敷しり岩らるる道者
しつるをせしり岩らるる塩敷しり岩らるる
者、海入、岩らるる塩敷しり岩らるる
の者、海入、岩らるる塩敷しり岩らるる
の者、海入、岩らるる塩敷しり岩らるる

二十四日

筆録事務をなす、ち塩津岩らるる河
口付して敷時武と能と古山築河の古
いゆを真向を費秋流城岩らるるもの
件は岩塩天、辞しあつて真向を流し
岩らるる塩敷しり岩らるる道者、海入に
付しつるを塩敷しり岩らるるをせし
りぬらるる塩敷しり岩らるる道者
しつるをせしり岩らるる塩敷しり岩らるる
者、海入、岩らるる塩敷しり岩らるる
の者、海入、岩らるる塩敷しり岩らるる
の者、海入、岩らるる塩敷しり岩らるる

二十五日

あま、海にりるる子、根車支と、つ時、細家、
さし、海入、岩らるる塩敷しり岩らるる

ゆき、書を授け、少の所、此、現、印、掬、
印、事、始、空、故、事、務、と、ま、り、の、ぬ、ゆ
書、答、り、趣、こ、も、(圓、書、：、條、一、五、書、事、来、る、
圓、書、二、百、冊、書、く、馬、琴、書、(書、ま、し、し、の、
自、由、を、ま、く、況、き、る、措、こ、が、二、の、
概、入、る、と、し、む、**是、(書、の、互、況、を、同、**
方、如、以、此、念、し、信、ん、と、ま、り、其、書、務、通、
三、(池、事、の、原、と、書、に、接、す、。、概、入、り、
何、ゆ、を、治、を、馬、琴、圓、書、の、ゆ、を、治、す、
女子、不、さ、う、し、と、二十、日、一、會、の、由、
あり、

東
棧
原
製

二十一

兩、池、事、の、原、事、ゆ、も、あ、し、信、任、う、り、
一、(書、ま、し、し、の、一、款、(印、文、事、始、)を、
然、る、。、書、の、原、事、ゆ、の、書、に、接、す、。、い、
三、(池、事、の、原、事、の、男、文、事、(書、ま、し、し、の、
一、(書、ま、し、し、の、一、款、(印、文、事、始、)を、
一、(書、ま、し、し、の、一、款、(印、文、事、始、)を、
授、す、。、概、入、り、の、由、を、治、す、。、
現、在、と、ま、り、の、由、を、治、す、。、
多、量、の、仕、事、を、治、す、

